

京都盲啞院における空間構成と教育プログラムに関する研究
明治期の京都盲啞院における建築設計図面、エスキス、関連資料から
日本建築学会計画系論文集/ No. 647/ pp. 25-34/ 2010年1月

正会員 木下 知威 君

これまで建築学ではほとんど扱われてこなかった盲啞院という施設の発生を探る建築計画史学研究として大いに評価出来る。資料の制約があったであろうと推測されるが、それにも関わらず、明治期京都において旧公家の屋敷を転用して盲啞院をはじめた経過や、教育、経済、気候などの諸条件のもとで建築計画が変化、発展した過程を丁寧に実証している。

現在では、盲と啞が別の教育プログラムによる別施設となっていることに疑念を持つものは少ないが、本研究によって、それはかならずしも自明で当然な前提ではなかったことが証明されている。

更に今後、目的で著者が述べている現在の「再編・複合化」問題について踏み込んだ研究が展開されることが大いに期待され、奨励賞にふさわしいといえる。